Honda Shingaku Juku News

月刊私塾界「名門塾探訪」貫先生への取材記事掲載

私塾業界の全国情報誌『月刊私塾界』の企画「**名門塾探訪**」において、誉田進学塾グループ代表の貫先生が取材を受けました！

真の意味での「**英才教育**」をめざし、「**学問に王道なし**」「**王道を行く**」というコンセプトのもと、未知の問題を生徒自らが考え成長していく誉田進学塾グループ飛躍の原動力が、余すことなく掲載されています！

名門塾探訪

誉田進学塾グループ（千葉県千葉市）

清水 貫 代表

強みを生かした新たな方向性を打ち出し、大きく飛躍！

1978年に開塾した誉田進学塾は30年の歴史を持ち、現在は創業者の清水妙子氏の長男である清水貫氏が代表を務めている。

塾の始まりはどこでもそうだが、小さな個人塾だった誉田進学塾は、今や生徒数909名、売上高3億8,600万円に上る中堅塾へと成長した。

千葉県の中で最も元気のある塾の一つとして注目されるに至った要因は、自塾の強みを自覚し、それをビジョンやカリキュラムに落とし込み、社員全員で共有したこと、さらには組織化へのプロセスにあるといえるだろう。

今回はそのあたりを中心に清水貫代表に話を聞き、さらに今後の塾づくりについても語ってもらった。

『読売ウィークリー』の好評価が新たな方向性のきっかけに

清水代表が自塾の歴史を振り返ったとき、塾を創業した1978年から鎌取教室を開校した92年までは「創業期」、93年から2005年までを「進化」、06年以降は「組織化」の時期と位置づけているという。

「創業期」とは、いわゆる個人塾の時代、「進化」は個の見え管理していた時代、「組織化」は本格的に新卒正社員も雇い、塾の規模を大きくしていく時代だ。

その中でも04年4月、『読売ウィークリー』において、公立高校（合格力）ランク首都圏第一位に選ばれたことは、その後の誉田進学塾のあり方に大きな影響力を与えることになる。

「実はその年の合格実績は、うちの塾では例年に比べると悪かったんです。なぜ悪かったのかをスタッフ全員で議論しているなかで、『読売ウィークリー』で他の大手進学塾を抑えて第一位に選ばれたものですから、正直驚きました。

と同時に、客観的調査によってそんなに合格力があるのであれば、それを活かしつつ後の塾のあり方を探ってみようではないか、少なくともそのような方向性ははっきり決めようと思ったんです」

と清水代表は当時を振り返る。

「今後は正社員体制で塾を動かしていくことを前提に、若い社員が活躍できる場をどう創っていくかをまず考えました。もう一つは、卒塾生からの『高校部をつくってほしい』というニーズにできるだけ早く応えることです」

そしてそのとき模索していた塾のあり方が現在の誉田進学塾として花開いていると見て取れよう。

昨年3月には高校部「東進衛星予備校鎌取駅南口校」、さらに今年7月には「同校上矢作（ことば）駅北口校」を開校した。東進衛星予備校だけでなく、06年に開講した「誉田進学塾ism」も、「もっと家から近いところに教室をたくさん出してほしい」という塾生のニーズに応えたものだ。

基本的に今通っている塾生や卒塾生のニーズに応えたものであり、他塾の生徒や塾に通っていない子どもの潜在ニーズを掘り起こすものではないかというのが大きな特色だ。

物事の本質を理解し、自ら考える力を養成

同塾ではオリジナルカリキュラムを作成し、思考力を養成する授業を展開しているが、独自の「演習テスト」も特色の一つ。

「多くの塾でやっている確認テストではなく、入試型の模擬テストに近いものなんです。それが毎週の授業の中に組み込まれ、しかも合格点を設定し、そこに到達できなければ追試や補習を行い、出来るまでやらせています」

ほとんどの塾で行っている「定期テスト対策」にもそれが明確に明示されている。

「予想問題」を解かせたり、テストのポイントを教えたりすることはいっさいしていません。やるのは、教科書を読んでノートにまとめさせること。そのまとめたことが定着しているかどうかを確かめるために、ワークを自分でやって自分で採点し、自分で間違いを訂正させるんです。これをテストの二週間前から実施します。つまり、勉強のやり方が身につくようなものに力を入れているんです」

このような学習でなぜ成績が上がるのか、合格できるのかと思われるかもしれないが、こういった学習で自らを成長させるからこそ、成績が上がっていくのです。

「これまでなくのことを学ばせていただいた千葉県内や全国の塾の皆様には大変感謝しております。今後も皆様とともに、子どもたちの成長のために頑張っている素晴らしい塾がたくさんある、そんな未来に向けて全力を尽くしていきます」

そんな誉田進学塾グループが目指すのは、真の意味での「英才教育」。

「学問に王道なし」を「王道を往く」というコンセプトに、子どもたちが自ら考え、自分の力によって新たな発想を生み出し、その結果、問題を解決していけるように育成することだ。もっと言えば、自分たちを越える人間を多く教育成することと、最後に清水代表はこう語ってくれた。

「たしかに人件費の割合は大きいですが、人件費は経費ではなく、『投資』と考えています。ですから今後も社員に活躍できる場をたくさんつくっていきたいですね」

目指すのは、真の意味での「英才教育」

授業をはじめ教務・企画・運営担当の教務スタッフは、全員正社員。教室サポートや総務担当の事務スタッフも正社員が中心だ。講師や進路カウンセラーの補助を行うチューターはアルバイトで構成している。

「たしかに人件費の割合は大きく応えることです」

誉田進学塾グループ沿革

1978年10月	開塾（旧誉田教室、千葉市誉田町）
1986年3月	誉田教室を現在地に新築し、移転
1990年5月	有限会社ジャスメック（YK.JASMEC）設立
1992年3月	鎌取教室開校（旧鎌取教室）
1995年5月	ジャスメックビル竣工　鎌取教室・本部事務局を移転
1999年3月	土気教室開校
2003年7月	ジャスメック2ビル竣工　土気教室を移転
2004年4月	読売ウィークリー公立高校（合格力）ランク首都圏第1位
2005年4月	読売ウィークリー公立高校（合格力）ランク2年連続首都圏第1位
2006年1月	誉田進学塾ism、誉田進学塾sirius スタート
2006年3月	ism ちはら台開校
2006年4月	読売ウィークリー公立高校（合格力）ランク3年連続首都圏第1位
2007年9月	文英堂シグマベストシリーズ「難高水準特進問題集」英語長文、英文法・英作文を出版
2008年3月	誉田進学塾premium 高校部「東進衛星予備校鎌取駅南口校」開校
2009年7月	誉田進学塾premium 高校部「東進衛星予備校土気駅北口校」開校

89 教学時から「ゆとり」、都が独自のテスト―中1、分数・小数が苦手　小4　割算が不慣れ　授業時間延長の課題浮き彫りに◆東京都教育委員会が1月に実施した、都独自の学力テストの結果が公表された。対象は小学4、5年生と中学ノ

88 ↘1、2年生で、多くが就学時から「ゆとり教育」を唱えた現行の学習指導要領を学んだ児童・生徒。結果からは、中学生が算数の分野でつまずいたり、長文の読解力が乏しいことなどが浮き彫りになった。

★誉田進学塾グループ飛躍の歴史や塾独自の取り組みも掲載されています。